

# 地域みんなの助け合い

共助

自宅にいくら備えがあっても、隣近所が火災すれば類焼してしまいます。また、近所には高齢者や乳幼児、身体に障害を持つ方々など、あなたの助けを必要としている人がいるかもしれません。災害に対して、地域みんなで助け合うことが必要なのです。

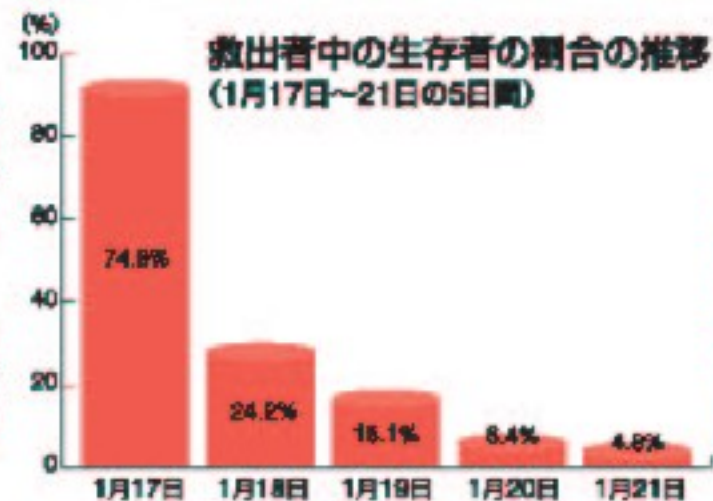


## 阪神・淡路大震災の教訓

右図は、阪神・淡路大震災における救出者のうち、生存者の占める割合を表したものです。被災当日の1月17日は、生きて救出された人が約75%でしたが、翌18日には約24%になってしまいました。早く助けるほど、生存の確率が高かったことを示しています。



倒壊した家屋などの下敷きになった人のうち、警察・消防・自衛隊に救助されたのは23%にとどまり、77%の人は近隣住民等によって助けられたという推計もあります。



## 大地震!そのとき近所で協力

### みんなで火事を消そう

一人で通報と初期消火を同時に行うのは無理があります。必ず近所の人に応援を求めて、小火のうちに消止めましょう。

#### 大声で知らせる

「火事だ!」と大声を出し、隣近所に助けを求めましょう。

#### 声を聞いたら

すぐ119番通報してください。しかし大地震で数多くの火災が起こっている場合、消防車の手が回らないこともあります。消火器が、水をくんだバケツを持って駆けつけます。

大声を出して、できる限り多くの人を動員しましょう。

#### 初期消火

火災に正対しないように姿勢を低くして消火器を構え、

- ① 安全ピンを抜き
- ② ホースを火元に向け
- ③ レバーを強く握ります

天井に着火したら、初期消火の限界です。すぐ避難しましょう。



### 災害時要援護者への支援

#### 災害時要援護者とは

高齢者、障害や疾病のある方、乳幼児、言葉の理解できない外国人など、他の被災者よりもハンデを背負った人々を「災害時要援護者」と呼ぶことがあります。



#### 日頃からの声かけ

災害時だけにわかに近寄っても、通じ合うことは難しいものです。近所に要援護者の人たちがいる場合、積極的に交流を深め、信頼関係を築いて、いざという時に安心して行動できるようにしましょう。

#### 災害時の対応

安全確認にかけつけ、一人での対応が困難だと判断したら大声で近所に助けを求めます。寝たきりの方などは、簡易担架などを用いて移動する必要があるため、複数の人で対応しましょう。

#### 要援護者側の備え

わが家の状況を自主防災組織や自治会に説明し、適切なサポートを依頼するなど、オープンな備えが必要です。

また、必要な薬や処置がある場合、それらを書いたメモを常に携帯するようにしましょう。

### 救出・救護のしかた

#### タンス等転倒家具からの救出



挟まれている人数を確認し、声をかけ安心感を与えるとともに、てこの原理を利用して隙間をつくり、痛みを和らげるようにします。持ち上げてきた空間が崩れないよう角材等で補強し、隙間があれば、てこの代わりに自動車用ジャッキを使って持ち上げます。

#### 出血の手当

##### 直接圧迫止血法

出血部位を清潔なガーゼや布で強く押さえます。



## 「声かけが 命を救う まず一歩」平成19年度防災標語 優秀作品

### 地域の自主防災組織

#### 自主防災組織とは

災害の時、消防が来るまで何もしないのではなく、自分の命を守るために力を合わせるほうが、本来あるべき姿です。

災害に対して人々が協力し、「自分たちの地域は自分たちで守ろう」と考えて、地域の人々がまとまった組織が、「自主防災組織」です。



#### 自主防災組織の活動に参加しよう

地域には町内会や小学校区、老人会などが自主防災会を構成していることが多いものです。市町村の広報などを通じて地域で行われる防災訓練について知り、積極的に参加しましょう。

消火器やAED(自動体外式除細動器)の使い方などを学ぶこともできます。

### 自主防災組織の活動内容

#### 防災知識の広報・啓発

地域の行事やイベントの中で、防災を意欲づける機会づくりをしたり、防災知識に関するチラシやパンフレットを作成、配布したりします。自主防災組織の役割分担や活動内容の紹介も行います。

#### 防災訓練

防災計画に基づいて地域の防災訓練を行い、必要な知識・技術の習得をはかります。内容は情報収集伝達訓練、消火訓練、避難訓練、救出救護訓練、給食給水訓練など多岐にわたります。また、地域の祭りや運動会など防災と直接関係のないイベント等において、災害時に役立つプログラムを取り入れるなどの工夫も行われています。

#### 防災資機材等の備蓄

消火、救出救護など様々な役割を果たすためには資機材が必要です。普段から備蓄、整備を行っています。

情報収集・伝達用	ハンドマイク・携帯用無線機・紙専用フジオ等	救出・救護用	バール・はしご・ジャッキ・担架・救急セット・救命ポット等	給食・給水用	炊飯器・鍋・コンロ・給水タンク・ろ水装置等
初期消火用	消火器・水バケツ・砂袋・ヘルメット・防火衣等	避難用	リヤカー・発電機・簡易トイレ・寝袋・組み立て式シャワー等		

#### 地域の危険箇所の把握

地域内を巡回したり市町村の作成したハザードマップを活用して、洪水、がけ崩れなど地域の危険箇所や、ブロック塀の安全などの実地把握を行っています。地域の災害履歴や伝承などを調べ、予防・応急活動に活用することもあります。

#### 火気使用設備器具等の点検

家の中には、火を使う設備器具や、スプレー缶等可燃性の危険物品が多数あるものです。自主防災組織として「点検の日」を設定するなど、各家庭で一斉に点検するよう指導します。

### 防災ボランティア

災害時には全国からボランティアの人々が被災地に集まってきて、様々な活動を支援してくれます。自主防災組織とボランティアが連携し合ったほうが、被災地の復旧を早めることができます。また、実際に被災地に行かなくとも、義援金を送ることも立派なボランティア活動の一つと言えます。

自主防災組織の活動は大切です。しかしそれぞれの組織が単独で活動するよりも、連携し合ったほうがいっそう効果は上がります。また地域には、学校、工場、店舗、老人ホームなど、さまざまな施設があり、これらの施設とも連携協力が必要です。このように、地域全体で防災に取り組む「防災協働社会」の実現が必要となってきています。

次のページへ

